

平成23年度弘前ねぶたまつり・特別運行・なぬか日スペシャルの結果について

【弘前ねぶたまつり】

1. 概況

今年度の弘前ねぶたまつりは、82団体（昨年より2団体減）が出陣した。新規参加団体は大型1団体、復活したねぶたは小型1団体であった。

会期中は天候に恵まれ、最終的には161万人の人出（昨年より2万人減）となった。

2. 参加団体

台

年度	大型扇	大型組	小型扇	小型組	担ぎ	合計
18	56	6	12	-	1	75
19	58	7	12	-	1	78
20	59	6	15	-	1	81
21	59	7	15	-	1	82
22	62	6	15	-	1	84
23	60	6	15	-	1	82

3. 人出

万人

年度	初日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	合計
18	30	27	27	23	35	23	1	166
19	32	27	25	20	36	26	2	168
20	35	21	25	26	36	24	2	169
21	35	22	23	22	33	22	1	158
22	37	19	25	15	33	32	2	163
23	35	23	20	18	30	33	2	161

4. 運行台数

台

年度	初日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	合計
18	40	35	59	38	62	49	14	297
19	44	35	60	39	60	49	14	301
20	39	43	61	42	60	57	12	314
21	46	37	61	41	66	55	13	319
22	49	36	61	44	64	59	16	329
23	45	38	63	41	65	58	26	336

5. トピック

- ・東日本大震災の復興支援を柱にまつりを開催し、初日出陣式に友好都市の北海道斜里町馬場隆町長、群馬県太田市から清水聖義市長の代理で大隈武則総務部長が運行へ参加し、まつりを大いに盛り上げた。
- ・東日本大震災で亡くなられた方々に対する鎮魂の想いや、復興支援のメッセージを掲げたねぶたが数多く見受けられたほか、「たか丸くんねぶたコンテスト」が行われ、26団体のかわいい「たか丸くん」や趣向を凝らしたねぶたが見られた。
- ・震災や原発事故の影響で団体ツアー客は少なくなったが、個人や少人数の観光客が増え、東北を旅行することが復興支援に繋がるという考え方が浸透してきていると感じられた。

【特別運行】

1. 概況

東日本大震災への鎮魂と復興をテーマに行った7月31日の弘前ねぶた特別運行は、20団体(申込み21団体)及び津軽情っ張り大太鼓が出陣した。開会セレモニーにおいて囃子方の一斉囃子等が行われ、荘厳な雰囲気の中、土手町コースを運行した。天候にも恵まれ、10万人の人出となった。

2. 参加団体

					台
大型扇	大型組	小型扇	小型組	担ぎ	合計
16	1	2	-	1	20

3. 人出 10万人

4. トピック

- ・東日本大震災で亡くなられた方々に誠を捧げ、鎮魂の想いを込め、復旧と復興を支援するため開催しました。
- ・セレモニー会場に集まった参加団体や市民の皆様と黙祷を捧げたあと弔砲を上げ、被災地の方角を向き笛の大合奏をした。
- ・水で霧を発生させ、道路が川のように見え、その中をねぶたが燈籠流しのように連なって見える様子を創りあげたあと、20台のねぶたと情っ張り大太鼓を停止させ、参加団体の囃子方が休みの囃子を演奏し、10万人の観客を魅了しました。

【なぬか日スペシャル】

1. 概況

弘前城築城400年祭記念及び東日本大震災への鎮魂と復興をテーマに8月7日(日)の夜に実施した。15団体の協力のもと、県道にねぶたを10台並べ、2台のねぶたと弘前城燈籠を燃やし、ねぶた囃子の戻り囃子を演奏したほか、アトラクションとしてねぶたに関連した歌や踊りで会場を盛り上げた。露店も数多く出店し、2万人の人出となった。

2. 参加団体

				台
燃やすねぶた	並べるねぶた	囃子のみ	弘前城燈籠	合計
2	10	3	1	16

燃やすねぶたと並べるねぶたの両方出した団体が1団体あるため、協力団体としては15団体

3. 人出 2万人

4. トピック

- ・ねぶたを燃やすことで、東日本大震災などの邪気を払い、多くの囃子手によるねぶた囃子で盛り上げるにより、鎮魂と復興にむけた元気発信ができた。
- ・県道に並べたねぶた10台に灯が入り、それを河川敷から見上げる景色は、初めてでもあり、新鮮で素晴らしい画となった。

まつり期間中(特別運行、なぬか日スペシャル含む)の人出は弘前ねぶたまつり161万人、特別運行10万人、なぬか日スペシャル2万人で、昨年より10万人多い173万人となった。